

とりいまついせきつうしん
鳥居松遺跡通信

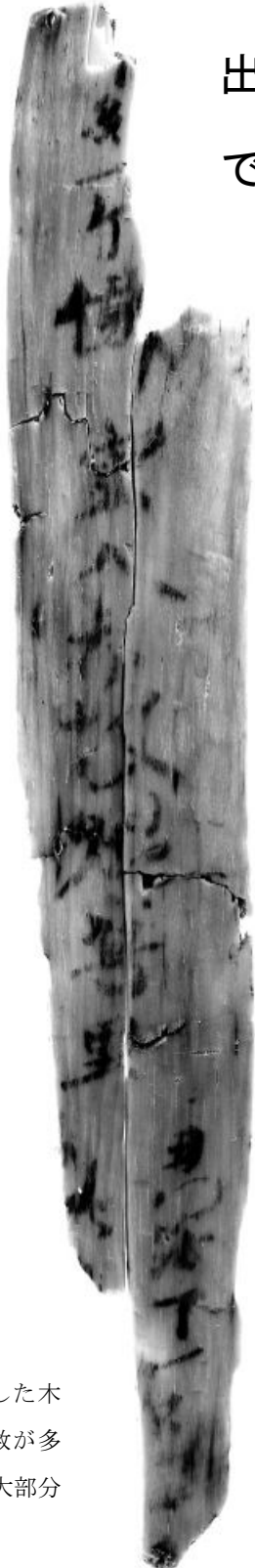
Nº5

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市文化財担当課 2008年3月16日

〔耳カ〕

□ 系一斤 貸 受 人 赤坂 郷 寫 里

出土文字が解読
できました。



忍海マ石 □



神 亀 元 □ □

〔年カ〕

■ 3号木簡

今回の調査で出土した木簡の中で最も文字数が多いものです。文字の大部分が解読できました。

3号木簡は、糸（布の原材料）の貸付証文です。

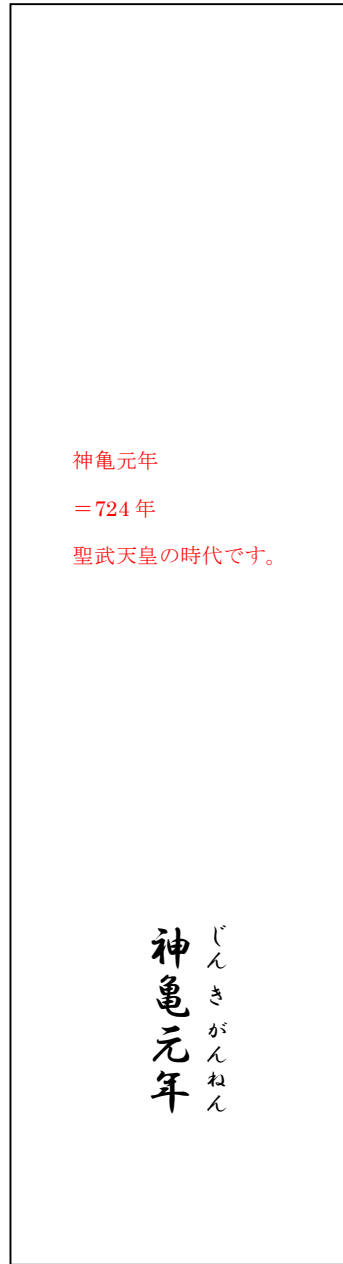
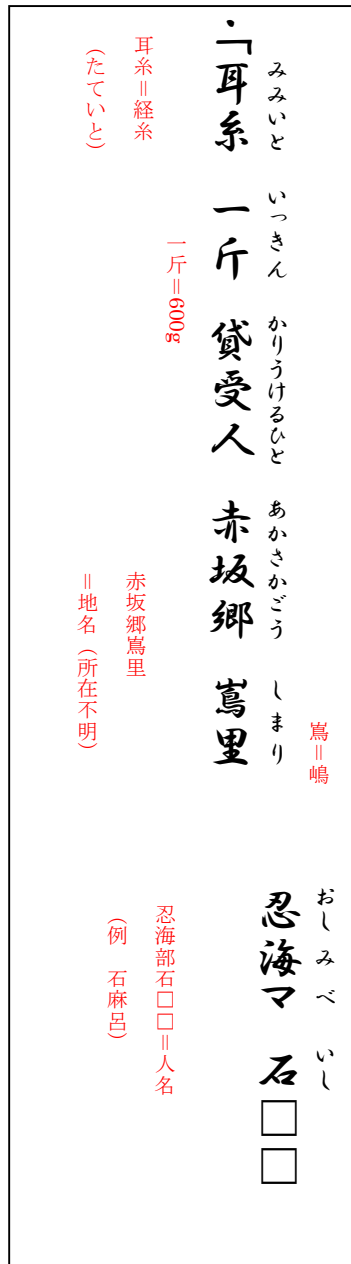
3号木簡は、神亀元年（724）、敷智（ふち）郡役所（伊場・鳥居松遺跡に存在）が赤坂郷鳶里（現浜松市内）に住む忍海部石□□さんに、絹織物の原材料（糸）を貸し与えた証文です。

郡役所が税として納める布の生産に直接関与していることを示します。

■ 3号木簡の内容

赤外線画像によって、判読しにくい墨文字が浮かびあがりました（表の写真）。

ここに示した読み方は一例で、奈良時代の読み方とは必ずしも一致しません。



発掘調査現場は今後も続きます。

鳥居松遺跡の発掘調査は、今後も継続します。3月の下旬から4月にかけては、奈良時代よりも古い、古墳時代や弥生時代の地層を調査します。発掘調査は、平日の晴天時、午前8時30分から午後4時30分まで実施しています。作業時間内でしたら、発掘現場は見学できます。お気軽に担当までお問い合わせください。